



電源ケーブルは図のようにケーブルに電源プラグを装着した構造であることは承知していると思うが、ではどのパーツがどのように影響しているのだろうか。やはり、まずは電源ケーブルであるのは間違いない。これが思うような性能を持っていないと、どのようなプラグを装着してもそれ以上の性能は出てこない。筆者が思うケーブルの理想は解像力が高くコントラストのしつ

### 電源ケーブルにおけるプラグの影響力

微、魅力があるのだろうか。

### 試作使用していた電源ケーブル

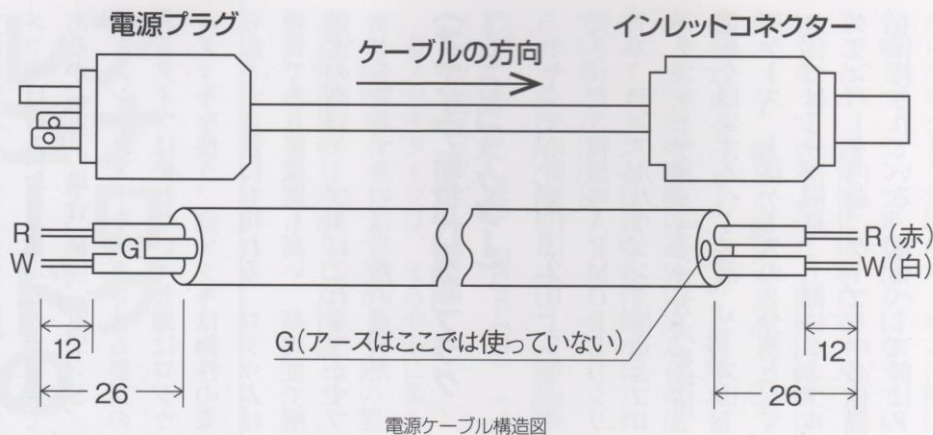
写真はアコースティック・リヴァイブの電源ケーブルにオヤイデのロジウムメッキプラグP・037、インレットにはフルテックのFI-50 (R) を装着して、しばらくパワーアンプのリファレンスに使っていたものだ。これは、透明で高解像度が高く、レスポンスが高速で鈍さがない。低域力は多少よわいが市販完成品には負けない性能がある。

ところで、このプラグの組合せは違和感もあるだろう。普通電源プラグと

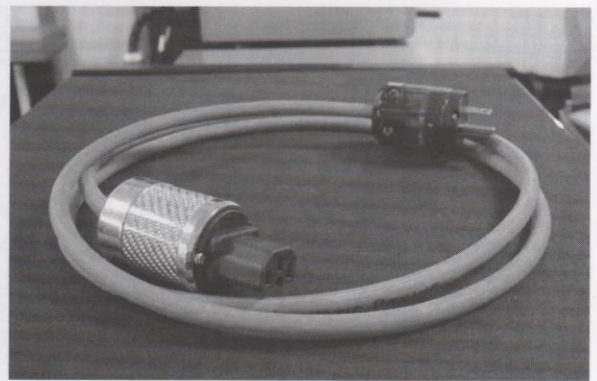
電源経路、電源ケーブルの影響力を忘れてはならない。機器の回路音質を左右しているからだ。電源ケーブルは自作する価値があり、完成品では得られない性能が入手できることも多い。今回はプラグ、インレットコネクターの最新動向としてオヤイデ電気（以下オヤイデ）、フルテックの製品を紹介する。自作に興味のあるマニアは、現在はオヤイデが2017年に発売したARMORED（アーマード）シリーズ、そしてフルテックが今期発売した2019年のシリーズが新製品で登場していることを知っておくことは参考になるだろう。これらはどのような特徴、魅力があるのだろうか。

かりした性能でS/Nが高いことだ。であるから、切り売り電源ケーブルは筆者はスピーカーケーブルとしてテストしてケーブル自体の音を確かめる。なぜならばプラグを装着すると、それが関係して加算や減算が発生するため、性能の本質を正確に知ることができないからだ。

そして両端に装着するプラグの性能が最終的に大きく影響している。では電源プラグとインレットコネクターでは、どちらが重要なのか。これはいろいろ実験してみると、電流の送り先であるインレットコネクターであった。



電源ケーブル構造図



アコースティック・リヴァイブ[power standard]にオヤイデP-037、フルテックFI-50(R)を装着した自作リファレンスケーブル

インレットは揃えた方がスマートだ。P・037にインレットはなぜFI・50(R)なのか。それは、当時インレットプラグの最高性能はフルテックのFI・50(R)であったからだ。電源ケーブルの送り先に装着するプラグは最終的な性能を決定する。

### フルテック インレットコネクター FI・48(R)の登場

インレットコネクターを交換する。別の条件で今期登場したフルテックの新製品FI・48(R)をテストして感じたのは、最高級を超えるのではないかと、という予感である。本当にそう

であるのか。新たに装着したのはフルテックの新製品インレットコネクターFI・48(R)。プラグ部分、ケーブルには変更はない。

パワーアンプで試聴する。音はエネルギーを高め、低音、また全体に厚く、レスポンスや解像度、そしてコントラストを高めた。澄みきる純度の高い音に愕然とする。これでは明らかに上級インレットコネクターを超えている。

実験のため試作したこの構成は、鮮度と立体感、低音のダンピング、力強さは素晴らしい。音像はぐんと前に出て正確に輪郭もはっきりしている。市販完成品ではめったに得られない性能だ。

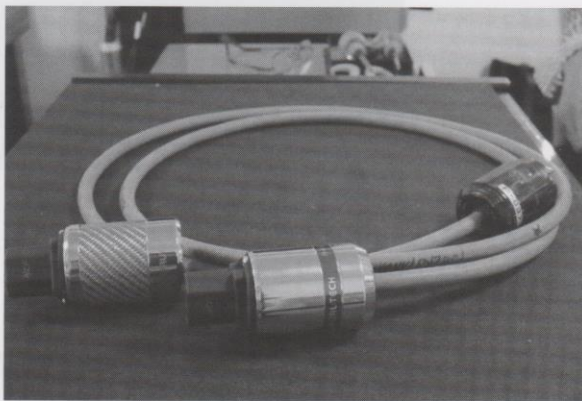
### 電源ケーブルを自作する意味

電源ケーブルをなんとなく作ってみよう。でも筆者が挑戦しているのは最高性能を目指す自作やそのための実験試作。ケーブルやパーツを選べば、そのような世界は可能だ。それだけ、現在は部品性能の高い環境がある。後述する最新部品は、製品に採用されるケースはほとんどない。コストが高くなるからだ。したがって、最先端部品の性能を楽しむのは自作するマニアである。オーディオ機器、オーディオシステムは、セッティングや電源供給経

路に使うケーブル、バーチャルアースなど、各種の要因で影響を受けている。その中で電源ケーブルによる回路動作の影響力を支配する電源ケーブル経路は、本質的な部分に影響する。完成電源ケーブルは低価格、高性能の時代であるため、これはなにも高価格でなくとも、2万円程度で付属電源ケーブルに対し十分にメリットが得られる。さらに目指すのであれば、自作による高度な挑戦である。

### 電源パーツのメッキの種類

電源プラグやコネクターの電極は真ちゅうやリン青銅、純銅が使われてい



インレットコネクターをFI-50(R)からFI-48(R)に取り替えた

## フルテックの2019年新製品

今回の新製品は絶縁構造素材にNCFを採用しているのはそれまでの高級

最高級モデルFI・50シリーズを

紹介しておく。NCFを採用、純銅電極にロジウムメッキ。ハウジング外周はシルバークーロンを採用したデザインを採用。従来品と比較すると、明確な中間帯域、締まりとコントラストが強化されている。

### ロジウムメッキの進化、銀メッキの魅力

フルテックで最も驚いたのはロジウムメッキの性能の進化だ。電源経路ではこんな性能が求められている。そして、新しく開発された銀メッキタイプの魅力がある。高純度で帯域は広く色彩感や気品のある音質。金メッキを好む人も銀メッキの方が魅力に思うのではないか。

低歪で高精度な輪郭描写、高速レスポンスなど、最先端のロジウムメッキの高性能モデル。

FI・50 NCF (R) シリーズ



フルテックの新電源プラグ/電源コネクター 左から

- FI-46M NCF(G) ¥17,000
- FI-48M NCF(R) ¥22,000
- FI-48M NCF(Ag) ¥21,000
- FI-46 NCF(G) ¥17,000
- FI-48 NCF(R) ¥22,000
- FI-48 NCF(Ag) ¥21,000

問:フルテック ☎03-6451-3941

N比の高い帯域特性を実現。繊細な解像力はロジウムメッキには負けるが金メッキによる自然な音質が得られる。

FI・48M NCF (Ag) (電源プラグ) / FI・48 NCF (Ag) (インレットプラグ)

純銅電極に純銀メッキを採用、従来にはなかったタイプ。なめらかで純度の高い音質に格別の魅力を見せる。歪感が少なく磨きのかかった美しい中高音の色彩感、柔らかく気品のある帯域の広い音が特色になっている。

FI・48M NCF (R) (電源プラグ) / FI・48 NCF (R) (インレットプラグ)

純銅電極にロジウムメッキ。高S/Nで洗練された高解像度基調で、その性能は上級モデルを超え性能がある。

モデルを継承したのだが、ハウジングはステンレス合金を切削加工した作りになっている。FI・50シリーズからハウジング外周のカーボン化粧は省略して、シンプルな作りになっていることが、音質的には新たなメリットにもなっているようだ。電極は純銅に金メッキ、新しく銀メッキのタイプ、そしてロジウムメッキの3種類が登場。メッキの種類の違いによる音は従来のイメージとは異なる性能が得られていることに注目。

FI・46M NCF (G) (電源プラグ) / FI・46 NCF (G) (インレットプラグ)

金メッキタイプは、まろやかに柔らかな傾向をイメージするが、今回の製品は解像度のしつかりした性能とS/